

# 心理学の基本講座

江川剛史

## 【著作権について】

- このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
- このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。
- 使用者は本レポートから得た情報を、著者の事前の許可なく複製、転載、流用、転売する事を禁止します。
- このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。
- このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。
- このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

心理学とは、人の心のはたらき、あるいは人や動物の行動を研究する学問のことである。

## [概論]

### 心理学の概要

一般に心と呼ばれるものの様々な働きである心的過程と、それに基づく行動を探求する学問である。現在の心理学は、環境と生活体(人を含む動物)の相互作用としての認知と行動を研究する学問である。

### 大まかな分類

科学的経験主義の立場から観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別される、とも。また別の角度からの分類では、現在の心理学は実験心理学(人間をあくまで対象と見なし、観察・実験によって知識の探求を推し進めようとするもの)、臨床心理学(精神に不調を来した人々の理解、および彼らにとって実際に役立つ援助を行おうするもの)に大別することも可能である。例えば、心を脳という情報処理装置と解釈し知識の集積を目指す認知心理学や行動分析は実験心理学に含まれ、一方、人間ひとりひとりを異なった独自の存在と見なし、主体性・創造性・自己実現といった人間の肯定的側面を強調しつつ具体的・臨床的な援助を提供する人間性心理学は、臨床心理学の中に含まれる代表的な立場である。

### 学際

その研究領域は広範囲に及ぶため、隣接する他の学問との相互連携が多様な形で行なわれてきた。例えば、心理学では仮説の域を超えられなかったものが、脳科学の知見によってその妥当性が検証できるのではないかという期待がある。また、ヒューマンエラーについての知見が、人間工学分野で取り入れられたりするなどの試みがある。プロスペクト理論などの行動経済学も盛んに研究されている。こうした動きは今後も加速すると思われる。

### 現状

現在、心理学と呼ばれる、あるいは関連するとみなされる学問分野が、多岐にわたる分野で独立に、ないし相互に影響しあって「心理学」と呼びうる共通のドグマを志向している。これらの学問分野はいずれも認知、行動、知能、感情などを扱っているが、それぞれ独立に機能しているのではなく「心」を構成する要素として不可分であり、これらの一部を研究対象とする学問は心理学の範疇に含まれるとみなされることが多い。

## [歴史]

### 「心理学」の歴史

心理学は直接的には、哲学から派生したと見なすことができる。一般に、アリストテレスの靈魂論に始まる哲学の一分野としての「心理学」と独立した科学の一分野としての心理学は、今日では区別される。

### [心理学的哲学]

『心理學概論』は、古くはタレスの哲学でも心について付言されているが、心理学の開祖と呼べる哲学者は「心は脳髄にあり」と述べたアリストテレスである。哲学から心理学へ独立した学問へと小径を開いたのはルネ・デカルトである。そして、心理学という全く別の科学的な学問を成立させたのはジョン・ロックであると云ってよい、としている。

### [科学的心理学]

心理学が1つの独立した科学分野として創成されたのは、19世紀後半(一般的には1879年とされる)にドイツのヴィルヘルム・ヴントがライプツィヒ大学にて心理学専門の研究室を構えたときであると、説明されることが多い。しかし、それまでもヤング＝ヘルムホルツの三色説など、今日の心理学の一部となる科学的な研究は既に行われていた。心理学の独立以前の研究はマッハの主観的明るさの研究など物理学者の基礎的考察によるものが多い。

心理学は、感覚や知覚など比較的「低次」な機能を扱う知覚心理学と、記憶や言語など比較的「高次」と言われる機能を扱う認知心理学に大別される。

### [生理学からの発展]

脳を損傷すると精神機能に異変が生じることから、「脳が感情や思考などの精神現象を生み出す中枢であるとみなし、脳を構成する神経系を調べることで精神現象を解明できる可能性がある」との立場が生まれた。この発想自体は古くはデカルトが心身合一の問題として言及しているが、実験的に調べられるようになったのは19世紀以降である。

19世紀のブローカやウェルニッケらの失語症と脳損傷の関係調査により、ブローカ野やウェルニッケ野などの言語中枢とされる脳部位(言語野)が推定された。この研究により、言語を扱う精神機能が脳という生理学的土台によって生じることが明らかにされた。脳損傷と精神機能失調との関係調査は20世紀初頭の第一次世界大戦以降、戦争で脳を損傷した患者の治療の過程で大きく進んだ。1960年代からは、CTにより脳血管障害患者の脳を非侵襲的に調べられるようになり、さらに進展した。

イワン・パブロフは1902年に唾液腺の研究過程で俗にパブロフの犬とよばれる条件反射を発見した。この研究を嚆矢として、正常な動物における生理的現象と精神現象の関係が論じられるようになった。この分野はパブロフの犬のような巨視的なものから薬物投与、神経細胞の分子生物学的解析など様々なものがあるが、全体的には神経細胞の振る舞いを調べるものが多い。

1960-70年代にかけて急速に進展した視覚伝導路の神経細胞の特性研究は知覚心理学に重大な影響を与えた。両者は視覚刺激を提示し反応を測定するという共通の手法を持ち、測定対象が神経細胞という微視的なものか、ヒトなどの動物全体という巨視的なものか、という点で違うと見ることできる。また海馬の神経細胞で発見された長期増強などのシナプス可塑性は、記憶の生理的基盤であると期待され、認知心理学に少なからぬ影響を与えた。

1980年代以降、神経活動を観測する脳機能イメージングの手法が発展するにつれて、脳機能局在論による神経機構の解明が試みられており、少なからず成功を収めている。その一方、こうした研究は現代的骨相学に陥る危険もはらんでおり、それを克服する試みとして計算論的神経科学などとの協力がある。

生理学と心理学の関係は、物理現象から精神現象が生起するのかという心身問題を常にはらんでおり、哲学上の重大な未解決問題となっている。神経機構の数理的解析は情報工学に影響を与えている。また、心理学が社会的に注目されるようになるにつれ、適切な研究成果に基づかない右脳・左脳論、ゲーム脳など疑似科学が出現した。

#### [病理学からの発展]

医学の分野において、精神疾患患者の治療という応用的な要請から、疾患の原因となる精神の構造の解明を試みる精神病理学が起こった。

ベトナム帰還兵の間で精神疾患を起こすものが増加し、社会問題となった。特に快楽殺人などセンセーショナルな事件が起こったため、広義の精神疾患が広く社会に認知されるとともに、PTSD など概念が確立し研究が急速に発展した。

1970年代より精神疾患に対する薬物療法の研究が進み、統合失調症、双極性障害に著効を顕した。これは神経細胞における受容体を介したシグナル伝達研究と並列に進展し、てんかん治療での外科的病巣切除とあわせて精神病理学を生理学と結びつける土台が作られた。

高齢化が現実の問題となった1980年代から1990年代以降、認知症に関する研究も数が多くなった。この分野でも神経の可塑性減少や細胞死など生理学的知見と密接に対応をつけた上で研究が進んでいる。

#### [動物行動学からの発展]

ヒト以外の動物の行動の研究である動物行動学は、実験心理学と手法の一部や生理学に対する関係を共有して発展してきた。特に(ヒトの)心理学(と動物の行動学)との対比において、比較行動学という訳語が当てられることもある。

狭義の動物行動学である、野外で野生の状態を観察する生態学については、心理学とは直接の関係を持たず、ヒトの機能の進化の過程における生態学的妥当性の検討、あるいは社会的行動の人間との対比において関連づけられる。

広義の動物行動学である、研究室内でラットやチンパンジーなどを用いる研究は心理学と密接な関係を持ち、多くの手法を共有する。こうした研究手法は他分野にも輸出され、医学などでも用いられるようになった。この分野はパブロフの条件反射研究に強く影響され発展してきたもので、動物の研究では古典的条件づけやオペラント条件づけの研究に発展し、ヒトを対象とした実験心理学でも内観法を徹底的に排除するなどの影響を与え、行動主義心理学と呼ばれる一派が成立した。ただしこのアプローチは極端であるとして、行動を重視する点では同様でもより生体の内部状態にも注目する新行動主義も出現した。現在の実験心理学の手法は基本的にこの影響下にあるものが多い。

#### [言語学からの発展]

ノーム・チョムスキーは経験主義や極端な行動主義を批判し、人間が言語を獲得できるのはそれに専門化された生得的な器官(言語獲得装置)を脳の中に持っているためだと主張した。チョムスキーに始まるこの議論は現在でも継続中であり、言語獲得と概念獲得は発達心理学の中心的なトピックである。

#### [教育学からの発展]

言語や思考の能力及びその成長発展を評価する必要から、現在の心理学の領域へと踏み込んだ。

近年は、学童の精神保健に関する領域においても教育心理学の立場から扱われるが、前述の思考能力に関するものとは元々の系統が異なっていることに留意が必要である。

教育現場では、心理学を使ったコーチングを導入している学校もある。

#### [情報科学との接近]

脳を一種のコンピュータとみなし、精神機能および脳機能を情報工学的に解析するという立場が現れた。認知心理学では、この立場をとる。

#### [心理学の分類]

##### [基礎心理学]

実験心理学  
知覚心理学  
学習心理学  
比較心理学  
動物心理学  
発達心理学  
乳幼児心理学  
児童心理学  
青年心理学  
老年心理学  
異常心理学  
認知心理学  
思考心理学  
社会心理学  
人格心理学  
生理心理学  
神経心理学  
言語心理学  
計量心理学  
数理心理学  
生態心理学

##### [応用心理学]

教育心理学  
学校心理学  
臨床心理学  
発達臨床心理学  
法廷心理学  
犯罪心理学  
産業心理学  
組織心理学  
環境心理学  
交通心理学

観光心理学  
スポーツ心理学  
芸術心理学  
宗教心理学  
災害心理学  
健康心理学  
家族心理学  
歴史心理学  
政治心理学  
民族心理学  
空間心理学  
経済心理学  
軍事心理学  
性心理学  
恋愛心理学

[さまざまな心理学の流れ]

連合主義心理学  
構成主義心理学  
機能主義心理学  
深層心理学  
精神分析  
自我心理学  
対象関係論  
新フロイト派  
自己心理学  
個人心理学  
分析心理学  
元型心理学  
ゲシュタルト心理学  
行動主義心理学  
新行動主義心理学  
行動分析  
ニューロック心理学  
人間性心理学  
トランスパーソナル心理学  
認知心理学  
生態心理学  
文化心理学  
進化心理学  
相貌心理学  
超心理学  
色彩心理学  
統一場心理学  
心理学の哲学

・心理学基本講座は、  
オープンライセンス文書を元に作成されたものです。

この心理学基本講座は、  
江川剛史から情報商材を購入した人のみ、  
アフィリエイト用の特典として一次配布することが可能です。

もし、貴方が、江川剛史以外から、  
この教材を配布された場合は、  
江川剛史から情報商材を購入しない限り、  
一次配布は行えません。

貴方も、この教材を配布したい場合は、

こちらから心理学アフィリエイトを購入してください。

<http://egawa-takeshi.com/shinrigakuafi/>

その他、江川剛史は、  
高額塾レベルのアフィリエイトノウハウを、  
無料で教えるメール講座、  
『アフィリエイト専業で自由になる方法』を配信しています。

アフィリエイトでは、  
稼いでいる人は、年間1億8000万円以上稼いでいますし、  
年間数百万稼いでいる人は、無数にいます。

ぜひ、私の無料メール講座にて、  
アフィリエイトノウハウを学んでみて下さい。

メール講座の読者解除は、  
いつでも無料でメール内にて行えます。

<http://egawa-takeshi.com/lp/landingpage.html>



『1700 個以上の特典付き』情報商材レビューランキング  
<http://egawa-takeshi.com/rebyu/>

それでは、お読み頂き、ありがとうございました。

ぜひ、学んだ知識を活かして、実践してみてください。